

西川産業(株)日本睡眠科学研究所所長	古川 雅嗣 様	
(一社)日本ゴム工業会事務局長	青木 正己 様	
ウレタンフォーム工業会専務理事	大川 栄二 様	
(株)ブリヂストン加工品新事業開発室課長代理	中西 貴浩 様	
(株)ロマンス小杉マーケティング部 MD	竹内 伸一 様	
(一財)ボーケン品質評価機構開発部課長	坂井 史治 様	
(一社)日本寝具寝装品協会専務理事	奥谷 孝良	中村 富夫
オブザーバー		
(一財)ボーケン品質評価機構東京事業所係長	大口 達郎 様	(*欠席)
(一財)ボーケン品質評価機構東京事業所	丸山 智生 様	

第4期業種別委員会：第11回ウレタン・敷部会議事録

1. 開催日時 平成30年1月24日(水) 10:30 ~ 12:30
2. 開催場所 (一社)日本寝具寝装品協会
東京都中央区小舟町7-2 小舟町243ビル7F ☎03-6661-0213
3. 議題(1) NITTA/住友理工式体圧分布データ検討について
 - (2) ウレタンフォーム物性試験データについて
 - (3) (株)東洋クォリティーワン寝返り試験方法について
 - (4) 特性評価シート(硬さ、へたり、通気性、寝返り等)表示について
 - (5) 他

議事録

議題(1)

- 古川部会長：体圧測定器はニッタ式か住友理工製か。マネキン制作はどうか。他表示法等も決め事は多々あるが、まずは測定器の同調策検討についてすすめる。
- 中西委員：ユニチカガ-メンテック生データで2社分析した。住友理工製は10mmHg未満110mmHg以上が測定不可で、15mmHgから測定値が出てくるので、10~20mmHgの一番多いところが拾いづらい。ニッタ式はより細かいデータ出現がある。
- 青木委員：体圧分布測定で圧力領域はどこが重要で必要なのか。
- 奥谷専務：頭、足部分よりも背中、腰の胴体部であり、50~60mmHg範囲である。
- 青木委員：50~60mmHgがより赤くでる住友理工製がよいのか、青味の強いニッタ式が使いやすいのか、分かれるところだが見え方の同調性を工夫すべきだ。
- 丸山主任：住友理工製は圧30mmHg以上ゾーンはニッタ式に比べ20~30mmHg強みにでる仮設がたてられる。
- 中西委員：絶対値の確認の為、平板上で重りを置いて測定する必要がある。
- 丸山主任：キャリブレーションの差なのか、ゴムとシートの差なのかわからない。下限値と上限値設定して、30cm角での絶対値確認測定を実施する。再度、ニッタ式と住友理工製測定器を借用手続きをJBAにお願いしたい。

(*中村 JBA : ニッタ式、住友理工製測定器とも両社快諾され、借用期間 2 月 9 日迄で発送)

丸山主 : 次回会議に測定データ提出するが、測定用標準マット仕様はどうするのか。
大川委員 : スタイロフォーム押し出し法 1 種スモール B 仕様とし準備して頂きたい。

議題 (2)

大川委員 : ウレタンフォーム工業会物性測定データ比較表の訂正箇所があるので、再度後日配布する。
奥谷専務 : ウレタンフォームとポリエステル固綿の素材差を JIS 法等で試験把握する為、一般仕様タイプの試験材を準備する。

議題 (3)

奥谷専務 : ウレタンフォーム含めた業界基準統一策であり、(株)東洋クオリティワンの協力を求めたい。特許使用料 1 件当たりでなく、業界に対し年間額固定費運用を求めたい。
大川専務 : JBA で一括表示法試験代として、支払う方法で再交渉する。

議題 (4)

奥谷専務 : マットレス・敷ふとんの性能を適確表現したいだけで、これは正しいとか駄目とかいうものではない。
竹内委員 : 1 枚物 A 法 40% 圧縮で 厚さ 50mm 品で上層柔らかめ 25mm、下層硬め 25mm の表記法はどうするのか。他にも組み合わせが上下、表裏にわたる。
青木委員 : 表裏 2 層、3 層品の硬さ、へたり、通気量、保温性 (熱伝導率) 等は計測できるのか。
古川部会長 : 特に通気量測定はどうか。
大川委員 : JIS K7225 試験法があるが 生地側にもよる。
坂井委員 : 厚みのあるものは吸放湿性試験は困難である。
古川部会長 : 通気性表記はやめる方向とする。次回は 2 月 13 日午前 / 午後通しで実施する。

以上